

教育委員会定例会（平成29年10月）会議録

1 日 時	平成29年10月13日（金）15:00～:17:00
2 場 所	新居浜市市民文化センター 別館4階 第5中会議室
3 出 席 者	<p>教 育 長 関 福生</p> <p>委 員 伊藤 嘉秀 宮内 文久 長野 美和子</p> <p style="padding-left: 2em;">近藤 智佳</p> <p>事務局長 武方 弘行</p> <p>戦 略 監 榎木 奨悟</p> <p>総括次長 三沢 清人</p> <p>次 長 高橋 良光 曾我 幸一 高橋 利光 曾我部 みさ</p> <p style="padding-left: 2em;">桑原 一郎 横井 邦明</p> <p>課 長 高橋 正弥</p>
4 教育長及び 教育委員会事業報告	<p>9月事業報告及び10月事業予定について</p> <p>その他</p>
5 記録者氏名	社会教育課 岡部 文仁
6 会議の概要	<p><教育長一般報告></p> <p><議案></p> <p style="padding-left: 2em;">議案第48号 新居浜市総合文化施設及び美術館協議会委員の委 嘱又は任命について</p> <p><いじめ、不登校等生徒指導関係></p> <p><その他></p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 平成29年度新居浜市教育委員会点検・評価について</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) 全国学力学習状況調査結果</p> <p style="padding-left: 2em;">(3) 学校現場における業務改善の状況について</p>

<p>関教育長</p>	<p>それでは定刻がまいりましたので、ただ今から平成29年第10回新居浜市教育委員会定例会を開催いたします。</p> <p>本日の会議録署名委員につきましては、宮内委員さん、伊藤委員さんをお願いいたします。会期は本日限りといたします。</p> <p>平成29年第9回定例会会議録承認は、近藤委員さん、宮内委員さんにご署名をいただいております。</p> <p>それでははじめに私の方から一般報告を行います。 資料の2ページをご覧ください。</p> <p>9月 3日 AJ3on3 2017レギュラーシーズン 愛媛ラウンド開会式（イオンモール新居浜）</p> <p>5日 市議会定例会本会議（・22日）</p> <p>12日 市議会定例会本会議一般質問（～14日）</p> <p>16日 第22回新居浜ひうちライオンズクラブ旗争奪 小学生バレーボール大会（山根総合体育館）</p> <p>30日 愛顔つなぐえひめ国体総合開会式 （愛媛県総合運動公園）</p> <p>10月 1日 平成29年度岳風会姉妹連合交歓吟道大会 （レイグラッツェふじ）</p> <p>3日 セーリング47都道府県懇親会 （リーガロイヤルホテル新居浜）</p> <p>4日 セーリング表彰式（マリンパーク新居浜） ウエイトリフティング監督会議 （市民文化センター）</p> <p>5日 ウエイトリフティング表彰式 （市民文化センター）</p> <p>6日 軟式野球開始式（市営野球場）</p> <p>9日 ウエイトリフティング総合表彰式 （市民文化センター）</p> <p>10日 愛顔つなぐえひめ国体総合閉会式 （愛媛県総合運動公園）</p> <p>11日 消防ポスター審査会</p> <p>社会教育課の事業は、 9月 2日 東予地区愛護班活動研究集会</p>
-------------	---

		(四国中央市福社会館)
	7日	教育委員会定例会(第9回)
10月	4日	高齢者生きがい創造学園 第2回あかがねミュージアム展(～9日)
	13日	教育委員会定例会(第10回)
	19日	全国・中四国公民館研究大会(高知市) (～20日)
	20日	第32回新居浜市民俳句大会 (市民文化センター)
	25日	愛媛県公民館研究大会(大洲市) 高齢者生きがい創造学園グラウンドゴルフ大会 (山根グラウンド)
		学校教育課の事業は、
	9月	1日 公立幼稚園、小・中学校第2学期始業式
		3日 市PTA連合会レクバレーボール大会 (市民体育館ほか)
		10日 別子小中学校運動会
		18日 中学校運動会 (中萩中学校、別子中学校、ひびき分校を除く)
		19日 中萩中学校運動会
		22日 中学生アメリカ訪問団第3回事前研修会
		24日 小学校運動会(惣開小学校、若宮小学校、 浮島小学校、別子小学校を除く)
		28日 新居浜市学力向上推進委員会
		29日 新居浜市今後の学校の在り方に関する 検討委員会
		30日 公立幼稚園運動会
10月	2日	学校業務改善検討委員会
		8日 中学生アメリカ訪問団第4回事前研修会 (ウイメンズプラザ)
		11日 中学校新人体育大会(～12日・14日)
		13日 船木中学校ひびき分校運動会
		14日 中学生トップアスリート事業(バレーボール) (市民体育館)(～15日)
		19日 中学生アメリカ訪問団第5回事前研修会

	<p>結団式・壮行会（ウイメンズプラザ）</p> <p>20日 第53回新居浜市小学校陸上記録会 （東雲競技場）</p> <p>28日 中学生海外派遣事業出発（～11月7日）</p> <p>スポーツ振興課の事業は、</p> <p>9月 4日 新居浜市政策懇談会 スポーツの振興WG第1回会議（応接会議室）</p> <p>10日 市制施行80周年記念事業 「宝くじスポーツフェア ドリーム・ベースボール」 ふれあい野球教室、ドリーム・ゲームほか （市営野球場）（4,994名参加） ふれあい講演会（あかがねミュージアム） （232名参加）</p> <p>12日 えひめ国体新居浜市選手団壮行会 （市民文化センター）</p> <p>20日 新居浜市政策懇談会 スポーツの振興WG第2回会議</p> <p>10月 1日 えひめ国体 セーリング （新居浜マリーナ）（～4日） えひめ国体 サッカー 少年男子 （市営サッカー場）（～4日）</p> <p>5日 えひめ国体 ウェイトリフティング （市民文化センター）（～9日）</p> <p>6日 えひめ国体 軟式野球 成年男子 （市営野球場）（～7日）</p> <p>11日 市制施行80周年記念事業 「第48回新居浜市民体育祭」 競技スポーツの部（市民体育館、河川敷グラウンドほか）（～2月18日）</p> <p>12日 新居浜市スポーツ推進審議会</p> <p>22日 市制施行80周年記念事業 「第48回新居浜市民体育祭」 総合開会式（市民体育館） ふれあいスポーツの部 （市民体育館、山根総合体育館）</p>
--	--

	<p>25日 新居浜市政策懇談会 スポーツの振興WG第3回会議</p> <p>28日 えひめ大会（全国障がい者スポーツ大会） （松山市他）（～30日）</p> <p>文化振興課の事業は、</p> <p>9月10日 市制施行80周年記念事業 「新居浜が生んだジブリの動画家 近藤勝也展 終了（入場者16,927名）</p> <p>11日 新居浜市美術館収集審査委員会開催 （あかがねミュージアム）</p> <p>20日 「文化庁新進芸術家海外研修制度50周年展」 開催（～10月29日） 新居浜市政策懇談会 文化振興WG第2回会議</p> <p>23日 「文化庁新進芸術家海外研修制度50周年展」 ギャラリートーク（作品制作作家による）</p> <p>10月 5日 三笠宮瑤子女王殿下 ご視察 （あかがねミュージアム） あかがねミュージアム臨時休館</p> <p>15日 太鼓祭りイベントのため、あかがねミュージアム 臨時休館</p> <p>19日 新居浜市美術展受付 （展覧会は11月3日～12日）</p> <p>28日 「文化庁新進芸術家海外研修制度50周年展」 ギャラリートーク（作品制作作家による）</p> <p>29日 郷土芸能発表会（市民文化センター）</p> <p>発達支援課の事業は、</p> <p>10月12日 第2回地域発達支援協議会 （こども発達支援センター）</p> <p>13日 第3回特別支援学級担任者役員会 （こども発達支援センター）</p> <p>14日 第3回心理アセスメント教室 （こども発達支援センター）</p> <p>20日 第2回通級指導教室担当者会 （こども発達支援センター）</p>
--	---

	<p>学校給食課の事業は、</p> <p>9月 4日 2学期給食開始（学校給食センターは5日～） 8日 9月度学校栄養教職員会（学校給食センター） 15日 給食管理専門部会（栄養教職員） （学校給食センター） 25日 四国中央市給食調理員研修受け入れ （学校給食センター）</p> <p>10月 6日 衛生管理研究会（泉川小学校） 13日 3学期物資（魚介類）審査会（泉川公民館） 31日 共同調理場運営委員会（学校給食センター）</p> <p>図書館の事業は、</p> <p>9月 7日 乳幼児向けお話し会 （子ども55名、大人53名参加） 12日 出前講座 乳幼児向けお話し会 （垣生公民館子育てサロン すくすくは～ぶ） （子ども6名、大人12名参加） 13日 幼児向けお話し会 （子ども23名（うち保育園児18名）参加） 16日 出前講座 小学生向けお話し会 （中萩公民館（萩っ子テン））（子ども45名参加） 小学生向けお話し会（子ども5名参加） 20日 幼児向けお話し会 出前講座 読み聞かせ講座（ウイメンズプラザ） （大人16名参加） 30日 「人形劇や おたこぐみがやってくる！」 （子ども69名、大人65名参加）（文部科学省委託事業「読書との出会い提供事業」）</p> <p>10月 4日 読み聞かせボランティアによる泉川っこ体験教室でのお話し会（泉川公民館）（文部科学省委託事業「読書との出会い提供事業」） 5日 乳幼児（0歳～3歳）向けお話し会 11日 乳幼児向けお話し会 12日 幼児向けお話し会 21日 小学生向けお話し会</p>
--	---

	<p>25日 幼児向けお話会</p> <p>27日 読み聞かせボランティアによる中村松木子ども食堂でのお話会（文部科学省委託事業「読書との出会い提供事業」）</p> <p>29日 第4回別子銅山を読む 「とっておきの新居浜検定」（多目的ホール） （講師：元別子銅山文化遺産課長 坪井利一郎）</p> <p>○ロビー展示</p> <p>8月29日 『スマホが与える子どもへの害』（～9月8日）</p> <p>9月12日 『みんなで守ろう新居浜市の救急医療体制』（～20日）</p> <p>26日 『自分に献身していますか？』（～10月6日）</p> <p>10月10日 『健康づくりのポイント』（～20日）</p> <p>○テーマ展示</p> <p>9月 一般展示『子規と漱石 その仲間たち』 児童展示『宇宙と星のものがたり』</p> <p>10月 一般展示『秋だ！図書館へ行こう』 児童展示『がんばれ！えひめ国体』</p> <p>○ケース展示</p> <p>9月『子規遺墨』</p> <p>10月『別子銅山記念図書館 祝25周年 図書館のあゆみ展』</p> <p>○企画展示</p> <p>9月『9月は防災月間ですー迫りくる核の危機ー』</p> <p>10月『別子銅山記念図書館開館25周年写真展』</p> <p>○図書館見学</p> <p>10月27日 ひびき分校 図書館を使った学習で来館</p> <p>ただいまの教育長一般報告で、何かご質問やご意見等はございませんか。</p> <p>次に議案審議に移ります。本日、議案第48号「新居浜市総合文化施設及び美術館協議会委員の委嘱又は任命について」を付議します。なお、第48号につきましては個人の情報に関する議案でございますので、新居浜市教育委員会会議規則第15条の規定により、この会の最後に非公開で審議させていただきたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。</p>
--	--

委員一同	はい。
関教育長	<p>ご異議がないようですので、最後に非公開で審議させていただきます。</p> <p>それでは、いじめ、不登校等生徒指導関係に移ります。事務局から説明をお願いいたします。</p>
高橋次長	<p>お手元の生徒指導関係資料をご覧ください。</p> <p><資料に基づき説明></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 不登校について 2 いじめについて 3 交通事故について 4 不審者情報
関教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今回、不登校の児童・生徒数が去年と比較すると減ったというような報告もいただいております。それを聞いて気を緩めるのではなく、これから先の増加を抑えるような取組、あるいは今ここで【〇】に転じているような子どもが一人でも増えるような取組をしていきたいと思っております。</p> <p>ただ今の説明について、何かご質問やご意見等はございませんか。</p>
長野委員	<p>不登校につきましては次長さんのお話を聞いて、数が減ったということで大変良かったなと思います。根気のいる気の長い取組になりますので、不登校の数が増えたとか、なかなか改善できないというようなマイナスの部分ばかりを強調すると、取り組む側も気持ち的に追い込まれてしまうと思うので、是非こういうように改善している部分がたくさんあるということを伝えていただければと思います。</p> <p>それから不登校の原因というのは様々あり、一つこれだということはないと思うのですが、やはり学校という場所に来る以上学習に対してついていけない、分からない、遅れているということは、子どもにとっては大きな気持ちの負担になって、学校に行き</p>

<p>関教育長</p>	<p>たくないという気持ちも出てくるのではないかなと思います。今も十分やってくださっていると思うのですが、そういう気持ちにならないような環境を作っていくということをお願いしたいと思います。特に小学校の高学年は非常に学力差がつき、このままであれば中学校の勉強はなかなかしんどいだろうな、というのが表れてくる時期です。5年生、6年生で九九もはっきりしないというような子どもに先生が学級の中で関わるというのは本当に難しいことなので、やっぱりそれに対しての支援というのがもつといるのではないかなと思います。それで完全に不登校がなくなるとは思いませんが、それでもそういうような改善をすることによって、一人でも二人でも学校に行った時に前を向いて勉強しよう、というような気持ちになるような支援をこれからもしていただきたいと思います。</p> <p>それから、まなび塾につきましては、たいぶ各学校で取り組んで広がっていていると思いますが、直接的にそれがどういう良い影響を与えているかというのは、まだまだこれから検証していかなければいけないことだと思います。誰かがみてくれないと勉強できないということではいけません、まだまだ小学生ですので、まなび塾のように誰かが勉強を一緒にみてくれるというような支えがあれば一人でも二人でも学習に向かおうとする子どもが増えていくのではないかなと思いながら私も取り組んでおります。是非まだ開いていない学校にも呼び掛けていただければと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>他に何かありませんか。</p> <p>では、私の方から少しだけ補足をさせていただきます。</p> <p>長野先生、まなび塾本当にありがとうございます。実際はこの祭り明けくらいにスタートになるかと思うのですが、前年度の事業で放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携型の事業に対しての文科省の予算をいただきまして、タブレットをまなび塾に40台ずつ9校に設置しております。そのうちの3校、金子、船木、泉川の3つの小学校で、ランドセルという統合型の学習支援のソフトを導入いたしまして、実験的に、まなび塾というよりも、むしろまなび直し塾ということになるかもしれませんが、そういったどちらかという学習困難を抱えている子どもの支援</p>
-------------	---

<p>三沢総括次長兼社会教育課長</p>	<p>をスタートするようになっております。</p> <p>また、9月以降に大生院が一つ増えたので、現在全部で9校のまなび塾が展開されております。残り7校ございますので、そこに向けて整理していきたいと思っております。もし、そこで指導していただければ是非教えていただければと思っております。</p> <p>他に何かございませんでしょうか。</p> <p>それでは、その他に移りたいと思っております。</p> <p>はじめに「平成29年度新居浜市教育委員会点検・評価について」事務局説明をお願いいたします。</p>
<p>三沢総括次長兼社会教育課長</p>	<p>お手元にお配りしております平成29年度新居浜市教育委員会点検・評価報告書（平成28年度対象）についてご説明申し上げます。</p> <p>新居浜市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価につきましては、6月の定例会において今年度の事務の進め方について説明申し上げましたように、今回、選定事業につきまして3名の委員の方々から意見の提出がございました。その意見を踏まえまして、所管課の方で「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」を作成いたしております。</p> <p>この、「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」等に関しまして、何か教育委員さんからご意見があれば、お祭りあけの10月20日頃を目途に、ご意見をいただけたらと考えております。</p> <p>そのあと、いただいたご意見を反映させた報告書を作成し、次回、11月の定例会におきまして、議案としてご審議いただく予定といたしております。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>関教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいまの説明について何かご意見やご質問等はございませんか。</p> <p>それでは、その他の2点目「全国学力学習状況調査結果」について説明をお願いいたします。</p>

高橋次長

お手元の資料をご覧ください。

小学校の結果は大変ショックな状況で、私自身は国語Bショックということで捉えております。

資料を開けますと、新聞記事が載っているかと思えます。新居浜市は、全国の数値と比べると、小学校もあまり遜色はないのですが、唯一国語B、いわゆる活用を問う問題で読解力やそれを通して記述する、というところが非常に落ち込んでおまして、未だこんなに落ち込んだ年はないのではないかと思うほど落ち込んでおります。先日の自主校長会にもお邪魔しまして、10日に小学校の校長先生方に直接この状況について説明をして、今度11月の自主校長会の中で、各小学校の校長でどうしてこの国語Bがこれほど落ち込んでいるのか、そしてどうすればこれを改善できるかというお話し合いを持っていただけたということになっております。

次のページをお開きください。この国語Bの不振がありまして、今回県内の各自治体では新居浜市の小学校は振るわない状況です。次のページは中学校ですが、中学校は全校の平均を上回っております。県内では真ん中より若干下ですが他市町と比べてもあまり大きな差はありません。

次のページですが、小学校17校の状況です。赤が全国平均正答率以上で、白いところはそれを下回るのですが、青になるとさらに5ポイント以上下回るということになっております。国語Aは基礎基本ですので、この辺りは学校の数を見ても半分くらいは赤で、青は3つという状況なのですが、やはり国語Bでは全国の平均を超えているのは4校しかないというような状況です。国語Bの問題は、初めに長文が出てきてその長文を読んだ後に設問があり、それについて答えていくというもので、かなりしっかりと内容を掴んで読み取らないと解けないものなので、そういうふうな訓練も十分ではないのかもしれないかもしれません。また、PISA(OECD生徒の学習到達度調査)の報告もそうなのですが、学習の中でやはり何を問われているのか、何を訴えているのか、そういうコミュニケーション力というのが非常に求められているのかなと思えます。将来、生きる力の中心の一つがコミュニケーション力になってくると思いますので、校長会と合わせて対策を考えているところでございます。中学校の国語Bに関しては、半分は平

均より上で半分は平均より低くなっているような状況です。

今回愛媛県の平均が全国で4位前後ということですので、愛媛県の平均ぐらいにいと、全国の自治体でみても相当な上位であるということになりますが、小学校の方がどうしても少し悪くて、中学校の方が伸びているというような傾向が毎年続いております。

次のページからですが、児童・生徒質問紙というものが学力テストと合わせて行われております。こちらは両ページ開いて見ていただくと分かりやすいかと思えます。左側が小学校のページ、右側が中学校のページで、同じ問いについて比べております。「朝食の摂取」について、ブルーのところ比べてみますと全国87%に対して新居浜市は82.1%ということで低くなっております。この傾向は小学校の方が顕著です。中学校も低いことは低いのですが、若干の違いしかありません。それから、真ん中は自分には「よいところがある」、いわゆる自己肯定観というようなものなのですが、新居浜市の小学生は33.8%、同じ県内は39.8%ですので、やはり自分には自信がないというようなことがここに表れているように思えます。ところが同じ新居浜でありながら中学校の方を見ますと、全国平均よりも高くなっております。毎回中学校の方が成績が良くなるのは、やはりこういうところにも表れているのかなと思えます。「発表が得意」、自分を積極的に出して自分の意見を述べるということですが、小学生は18.7%と弱いですが、中学生の方は愛媛県よりも全国よりも高くなっております。中学校生活を通して何か自信を身に付けている、自分にはよいところがあるな、ということが非常に大きく意欲につながっているのかなと思えます。

次のページも同じような見方をしていきます。「家庭学習の時間」ですが、新居浜市の家庭学習というのは全国と比べれば多いのですが、この数字があつてこの成績ということなので、内容に色々と工夫が必要なのかなと思えます。それから「授業以外の読書時間」ですが、授業以外でどれくらい読書をしますかということで、これは30分を超えるグレーのところまで入れますと小学生はやはり少ないのかなと思えます。中学校の方も同じように見ますと少ないような状況です。

そのほか「家族との会話」「地域行事参加」などがあります。愛媛県では地域行事に参加していると答えた人の割合が高く、地

<p>関教育長</p>	<p>域との連携を謳っている新居浜市が低いというのはショックなことでもあります。</p> <p>それから「読書好き」ですが、半分くらいの子は当てはまるようです。どちらかといえば当てはまるも加えますと8割くらいの子どもは読書が好きであると答えております。これは、小学校においても中学校においてもそうした結果が出ているようです。</p> <p>次の資料は経年変化をみております。A3サイズの資料を見ていただければと思うのですが、今回中学校の子どもの成績はそう悪くはありませんでした。全国でも上位クラスの成績まできております。ただし、その子たちが平成26年、小学校6年生の時はどうだったのかといいますと、中学校の成績と比べると、国語Aでは小6より2ポイントアップしております。国語Bは小6の時と変わってはおりませんが、算数Aは3ポイントアップ、算数Bは6ポイントアップ、合計で見ますと小6の時より10ポイントアップしているという結果です。中学校になってやはり国語も数学も力をつけて伸びてきているということがみえるかなと思います。</p> <p>国語Bで躓いている今の6年生に対して早急な対策をとって、中学校3年生の時にはそれ以上に良くなっていけるように、また努めてまいりたいと思います。</p> <p>長くなりましたが、以上です。</p> <p>ただいまの説明について何かご意見やご質問等はございませんか。</p> <p>私の方から一点だけ失礼いたします。これは先般の学力向上委員会の中でも少しお話しさせていただいたことなのですが、新居浜市は各学校においてかなり特性が違うという状況に対して言及させていただきました。成績が上位にある学校というのは成績の分布図でいうと正規分布を示します。しかし成績の悪い学校はフタコブラクダのような傾向で真ん中が抜け落ちており、ピークがないような学校もあります。正規分布であればどのレベルにウエイトをかけて授業をすればいいかということが見えやすいと思うのですが、フタコブラクダになった時に下にウエイトをかけると上がふきこぼれる、上かけると下が落ちこぼれる、学力に対して非常にどういうふうな向上策を打っていったらいいのか難しいような気がします。その辺、先ほど高橋の方からお話があ</p>
-------------	---

	<p>りましたが、校長会の中ではそのもう一つ具体的内容について言及していきたいと思っております。</p> <p>それと国語Bの対応についてですが、新居浜の子どもは読書に対しての取組は割と弱い部分があるのかなと感じます。先般、学校司書の意見を聞かせてもらったのですが、本に親しむということが読解力、あるいは日本語理解能力という言葉も使っておりますが、そういうものにつながる気が私もしております。できれば新居浜の子ども達ももっと本に親しめるような取組をPTA、保護者等との連携もと、読み聞かせ等との活動とも連携しながら、来年度の一つの事業として打ち出していけないかなと今考えております。もし、ご意見ございましたらこの場でお聞かせいただけると非常にありがたく思います。</p>
宮内委員	<p>平成29年度2位の学校は常にいい順位なので、これはもしかすると大規模校で学校として何かシステムみたいなものが定着していて子ども達が勉強するという事なのかもしませんが、今回1位の学校のように学校の先生がしっかりやる気になれば、子ども達もそれに答えて取り組みいい成績をとることができる、というのは少し期待しすぎなのではないでしょうか。学校の先生がやる気がないと子ども達もやる気がなくなるけれども、学校の先生にやる気があれば子ども達もそれにつられてやる気になる、というのは学校に先生にとっては辛いところがあるものですか。</p>
長野委員	<p>やはり、このような順位が出る時の結果を教師の責任というふうにもってこられることは、一番の問題なのではないかと思ます。教師にも力量の差がありますし、本当に熱心でこのようなことに長けている先生もいれば、いい生徒さんを持っているのでいい結果が出せるというような先生もいらっしゃいます。なので、先生の力でその結果になったというように考えるのはどうなのかなと思ます。結果が数字で出るということは、どうしても他校との比較になってしまいますし、それは覚悟のうえだと思ますので、結果があれこれとあまり言うと現場は非常に難しいのかなと思ます。</p> <p>私自身の経験からいいますと、学力調査を受ける学年の子ども達は毎年違います。200人くらいいる大きな学校ですと、例えばその中に支援が必要な子が3人くらいいてもそれほどの影響</p>

<p>近藤委員</p>	<p>は出ませんが、一学年が60人しかいない小規模な学校で、その中に3人くらい支援が必要な子がいれば、どうしても結果に影響してしまいます。先生がどんなに頑張っても一生懸命努めても良い結果を出すのは難しいというところもあると思います。ですので、こういう数字はそういうものだと思って見るべきだと、私は思います。</p> <p>少し違う話になるのですが、先ほどから新居浜はあまり結果がよくなかった、というようなお話が出てきておりますが、私はどう考えても愛媛県の中で新居浜の子どもが劣っているというようには思えません。学習にしても読書にしても、そんなに新居浜の子どもが落ち込む要因というのは一体何なのだろうかと思います。子ども達はいつも一生懸命頑張っておりますし、先生方にも本当に熱心に取り組んでいただいております。色んな関係機関も子ども達の成長に向けて色々な取組をいただいているので、どこにそのような要因があるのだろうと思います。次長さんがおっしゃるように成績が悪い原因を考えていく必要もありますが、非常に成績の良い他市や他地域が、新居浜ではしていないどのような取組をしているのか、新居浜市とは違うどのようなやり方をしているのかということの研究してみるのもいいのではないかと思います。</p> <p>私はあまり市外に出たことはありませんが、市外から新居浜に帰ってきて一番思ったことは、新居浜は小学校の単元まとめテストが非常に簡単だということです。たまたま私が行った学校がそうだったのかもしれませんが、他市のテストは先生にとっては大変なのですが配点も内容も細かいものでした。そのようなテストを低学年の頃からずっと当然のようにやっている子と、一つ10点くらいでぱぱっと丸がついて、絵や写真がいっぱいあるテストに慣れてしまっている子では、やはり勝負にならないのではないかなと考えたりもしております。</p> <p>ただ何度も言いますが、やはり数字というものを見る時にその背景とかどういうふうに見るかということは見る側の考え方や責任というのもあるかと思いますので、あまりこの結果が現場や保護者にとってもマイナスの方向に動かないように考えるということも大事ではないかと思います。</p> <p>私には4年生と6年生の子どもがいるのですが、長野先生のお</p>
-------------	---

	<p>話の中で出たようにまとめの単元テストは、カラーで字も大きく、2人のテストの内容に差もあまりないように感じます。しかし、通信教育や塾で使われるようなテストになりますと、そんなにハイレベルではありませんが、やはり問題がもう少し6年生は6年生で来年中学生になるなりの聞き方になっているように感じます。単元テストについて今まであまり考えていなかったのですが、そう言われると学校のテストってものすごく簡単だなという印象は持ちました。</p> <p>それから、今子ども達が毎日自主学習を宿題として持って帰ってくるのですが、親が丸をつけてあげなければいけないというのが必ずあります。しかし、子どもに聞いてみると丸つけをしてくれる親はそんなにいないと言っておりました。他市の親達がどれくらい子ども達のために家庭学習に時間を使っているのかは分からないのですが、新居浜市での家庭での学習サポートはどうか気になっております。</p> <p>もう一つ読書についてですが、高学年になると色々なことをしなければいけないので、家庭で読書時間をとるのがなかなか難しいと思います。学校でも委員会活動や陸上、合唱など色々クラブ活動があると、昼休みも図書室に通う時間がないので、読書がとっても好きな子も読書の時間をとるのが本当に難しいように思います。ここに出ているように読書がすごく好きと答えている子ども達が落ち着いて読書ができる場所は最終的には学校しかないのではないかなと思います。なので、読書の時間読み聞かせの時間等あると思いますが、大人達が上手くサポートして本を読む時間をもう少し確保してあげることができればいいのではないかなと思います。</p> <p>読書は学校でできる方がいいのですか。私は、家で読めるような環境を家庭が作っていけるように促す方がいいのではないか、という思いが強いのですが。</p> <p>もちろん、そういう環境が作れるのであれば家庭で読める方がいいとは思いますが。</p> <p>家庭で読書ができるように学校図書の貸し出しの仕組みをもっと充実させるとか、PTAとの話し合いの場をたくさん持つと</p>
関教育長	
近藤委員	
関教育長	

	<p>か、そういったことをやっていこうと考えております。家庭教育を充実させることによって学力向上を図った先進地域は秋田県ではないかなと思っておりますが、その秋田県のように何か新しい仕掛けがあってもいいのかなと思っております。学校も放課後まなび塾と並行させて図書館を子ども達に開放するというのも一つの策かなと考えております。何かその辺色々な知恵を皆さんにいただいて、チャレンジしていきたいと考えております。</p> <p>何か他にございませんか。</p>
伊藤委員	<p>これと関わるかどうかは分からないのですが、「ゆとり教育」というものはもう終わったのでしょうか。</p>
榎木次長兼教育力向上戦略監	<p>「ゆとり教育」というものは正式に言いますとありません。いわゆる授業実数を前回の学習指導よりも少なくしていたという時期は確かにありましたが、現在はどちらかと言いますと授業時数は増えている状況です。</p>
伊藤委員	<p>それはいつから増えだしたのでしょうか。</p>
榎木次長兼教育力向上戦略監	<p>前回の学習指導からですから、8、9年前ですね。2010年になります。</p>
伊藤委員	<p>私は3人の子どもがいるのですが、子ども達をみていると、ゆとり教育世代の子どもなのかどうかは分かりませんが勉強しなくてもいいのではないかなと思って生活している子、学校から宿題をいっぱい与えられてどうしても勉強しなくてはいけない子、そして勉強するというリズムが身に付いていて読書も勉強も自然にする子、という3パターンの子どものいるように思います。これは、おそらく親というよりも、学校の先生のご指導によって少しずつ違ってきているのだろうと思います。大学3年生の娘は、何気なく時間を過ごしてきたような感じなのですが、中1の子どもは自然と自分で勉強して、その後読書をするという生活が身に付いているようです。周りの友達も同じような生活をしているようなので、これは先生が非常によくやってくれている成果なのではないかなとありがたく思っております。</p>

<p>長野委員</p>	<p>今、若い先生方が非常に増えて、ベテランの先生がどんどん退職されて、先生方はちょうど変わり目にあると思います。若いからどうこう、ベテランだからどうこうというわけではございませんが、やはり経験というのは非常に大きいと思います。講師の先生もたいぶいらっしゃると聞いております。講師であろうと初任者であろうと30年やった人であろうと、学級を一つ任されたらその時点で同じです。この人は初任者だからこれくらいしかできなくてもいいというのは一切ありませんし、講師の先生が突然入ってもやはり同じことが要求されます。聞いた話によると非常に人が足りていない状況でベテランの方や、色々な方が講師をされているようで、なかなか難しいとのこと。やはり教室が子ども達に一番関わる部分で、小学校の場合は非常に影響が大きいので、まだ経験が十分でない先生や突然入った先生もちゃんと同じペースで指導をしていける環境を作っていけるかどうかということ、きちんとしていかないと、それを学校に全部任せて、学校でなんとかやってください、というようにすると、学校は非常に大変だと思います。もちろん支援はたくさんありますが、1年過ぎたら2年目から独り立ちできるわけではございません。学校の中でできることは十分にしないではいけません。何かサポートといいますか、この先生に持ってもらって得した、損したというような感情を子どもや保護者に持たせないように、そういうことを教育委員会でも考えなければいけないのではないかなと思います。こういったことが少しずつ学力にも影響してくるのではないかなと思います。</p>
<p>関教育長</p>	<p>他に何かありませんか。</p> <p>また、色々ご意見がございましたらなんなりと行っていただけたらと思います。</p> <p>それでは、その他の3点目「学校現場における業務改善の状況について」ご説明をお願いいたします。</p>
<p>高橋次長</p>	<p>お手元の資料をご覧ください。</p> <p>1ページ開けていただきますと目次になっております。資料は全部で7種類です。新居浜市が今年度国の事業で学校現場における業務改善の加速事業というものを受けております。1つ目がそ</p>

<p>榎木次長兼教育力向上 戦略監</p>	<p>れについての資料、2つ目はその事業の中で新居浜市の学校業務改善をどのように進めていくかというポリシー（仮）について、それから3つ目はこれまでどういうふうな取組をしてきたかということでの取組の経過について、4つ目は昨年度2月に業務改善検討委員会というものを各分野別に先生の代表を集めて、様々な課題を洗い出ししていただいたのですが、それに対してどのように現在取組が進んでいるかという状況について、それから5つ目は先ほどの学力の問題とも関わるのですが、子ども達にとって本当の意味で元気で前向きで明るいお子さんを育てるためにこういう授業をしていくのがいいのではないかという授業モデルについて、それから国・県の業務改善の方針についてで、1つは国の方の取りまとめによります学校現場における業務の適正化、2つ目は愛媛県のその方針、7番になっている3つ目は、ついこの間、文科省の方から緊急に提言が出ました一番新しい資料になりますので、参考資料としてお付けしております。所々、榎木戦略監にお話をさせていただきながら説明をしていきたいと思います。</p> <p>では、1、2番について榎木戦略監の方から簡単に説明をお願いいたします。</p> <p>それでは、表紙を入れて3枚目の新居浜市学校業務改善ポリシー（仮）という資料をご覧ください。</p> <p>先ほど次長から説明があったように国の事業を愛媛県として受託しております、今年度については新居浜市と西条市が愛媛県から再委託を受けて市単位で実証実験というかたちで取組を進めております。西条市については、ICTをたいぶ取り入れている関係もあるので、基本的にはICTを活用することにより業務改善を図れるかどうか、ということを中心に進めております。新居浜市は、スクールソーシャルワーカー、社会福祉の人材を使って不登校のフォローをすとか、そういういわゆる先生だけで対応すべきでない案件を先生以外の福祉の人を入れることでどれだけ負担感が減らせる相談体制ができるか、ということが一番のメインの手段として取り組むということで事業を進めております。また、この事業を受けるにあたって今後おそらく全国全市町村が作っていく話にはなりますが、業務改善を進めるためのポリシーというものを必ず決めていかねばならないというこ</p>
---------------------------	--

とですので、まずは（仮）というかたちでたたき台を作りました。このかたちでまずは半年間進めていき、そのうえで（仮）を取るにあたって、半年間の実証結果や新たな課題等色々なものを上乗せしたり、数値目標を見直したりして、来年度以降本格的に業務改善を進めるための（仮）を取った正式なポリシーにしていくという意味合いのものでございます。

もう一枚めくっていただくと出てきますイラストになっている資料は、今の内容を一枚の絵にしたものでございます。基本的には、一番下の「これからの時代をたくましく生き抜く児童生徒の育成」ということが大前提で、そのために右下の先生方、学校の業務への負担感の軽減を図ること、先生方のモチベーションを維持・高揚し続けること、きちんと授業や生徒に関わる時間を確保してあげることが狙っていくということで、左側の大きく5本の柱で取組自体は進めていきたいと考えております。

1つ目が、学校・学級経営、マネジメントの強化ということで、教員と事務職員ですとか教員と福祉の方がやるべきこととか関係機関との連携というところからは外部の力を頼るしかないということを明確に示すことで、先生が本当は自分でどうにもならないことを一人で悩む、といったことをいかに整理していくかという観点で役割分担を明確化していくということを図っていきます。同時にそういったことをきちんと認識していくための研修も進めていくということなので、純粋に学校教育というものをもう一度見直して行って、当たり前であることが当たり前ということもなくして、ちゃんと何のためにやっているか考えながら進めていこうということです。マネジメントに関して言えば、コミュニティ・スクール自体がまさに地域と学校が一緒に経営していく、考えていくということですので、そういったものを進めていくということです。

コミュニティ・スクールは当然2つ目の「チーム学校」にも関わってきますが、この2つ目が新居浜市で実験として取り組むところでは一番大きなところとなっております。外部人材をいかに活用して教員の負担感を軽減していくかという観点で、社会福祉の人材を入れたり、すでに進めてきているような学校司書やALT等の活用であったり、あとは放課後の活動などそういったものともどう連携していくか、ということも関わってきます。あと事務職員をどう学校経営自体に参画させるのかという点もあるか

と思います。

3つ目は、事業としては直接的にはしていませんが、新居浜市としては別途進めている部活動をどう改革していくかというところ。指導者の意識改革や、緊急に設定させていくことになり、休養日をどう明確に設けていくか、あとは医療機関との連携によりケガや故障の防止をするだとか、いわゆる科学的な根拠に基づいたトレーニングなり部活動を進めていくということなどが項目として挙げられます。今後は国や県の状況も考えていかなければならず、制度的にも部活動指導員というものができます。外部指導者等を活用して部活を先生以外の人に任すことができるようなものにしていくことを考えていかなければいけないということでございます。

4つ目はICTの活用促進です。これはもうすでに始めておりますが、そもそも学校の先生は自身でも自分の勤務時間が分かっていないので、グループウェアを活用して勤務時間をきちんと正確に問うということをしております。それによって自身の勤務を客観的に分かっていただき、その次のステップとしてどういう業務を何のためにどのくらいやるのかということ自身でちゃんと把握して考えていただくというセルフマネジメントを進めていただこうと考えております。もう一つは来年度以降の大きな課題になりますが、統合型の校務支援システムをどう導入していくか、そして、ICTを活用した授業、教材等をどう使って効率的に効果的に授業を進めていくのかということでございます。

最後が、学校の外も含めた総合的な支援体制の充実です。医療や福祉関係機関とのネットワークをどう充実させていくかということ、教育委員会そのものにそういった学校の活動をサポートしていく体制をどう作っていくかということ。あとは、学校外ではありますが、適応指導教室であるあすなろ教室等をどう強化していくか。そして、民間教育事業も含めた学校以外の教育機関とどう連携していくかというポイントで業務改善を進めていきたいと考えております。

今後半年間まず県の事業を受けてこういった項目観点を中心に進めていき、観点が足りないものがあるかないかを含め、効果が出るかどうか、どのくらいの目標値を設定すれば長期的なプランとして効果的か、ということを含めて検証したうえで年度末までに（仮）の部分を取って、正式なポリシーとして進めていくと

<p>高橋次長</p>	<p>いうことで考えております。</p> <p>ポリシーについては以上でございます。</p> <p>では、次のページをお開きください。</p> <p>ここまでどういうことをしてきたかということですが、新居浜市で業務改善が本格的に動きだしたのが昨年7月8日で、教育長が講師となってワークショップを開き、それぞれ小中学校の校長がどのような意識を持っているのか、ということを確認したのがスタートです。</p> <p>本格的にやろうということで国のアドバイザー派遣事業にも応募いたしまして、年間3回アドバイザーを派遣していただきました。今もずっとお世話になっている鳴門教育大学の久我先生や、新居浜市出身で西高の卒業生である有馬様が社長をしておりますデンソーという会社からお二人講師の先生に来ていただきました。3回目はもう一度久我先生にきていただいて、第1回学校業務改善検討委員会を開き、色々洗い出しを行いました。また、今年度に入りまして久我先生に全教職員対象の講演会も開いていただきました。徹底的に相手を評価して褒めるとい言葉掛けのボイスシャワーや相手のことを大事にして聞く、ということによってルール作りと関係作りができ、どんなに荒れている学校でも良くなるというようなことで、これまで実践されてきていることについてお話をさせていただきました。それから8月には妹尾先生による講演会の開催、9月からは先ほどもお話ししましたがグループウェアによる勤務実態の把握を開始いたしました。やはり、学校の超過勤務は多いです。それから10月には学校業務改善検討会も行っております。</p> <p>次のページはこれからどういうことをするかということが書かれております。ここからはスクールソーシャルワークに力を入れていきたいと思っており、近いところでは10月27日に事務職員対象の研修会、11月11日にはあかがねミュージアムにスクールソーシャルワークの専門家山野先生に来ていただきます。ぜひ教育委員さんにもお聞きいただけたらと思っております。このようなかたちで進めていこうと思っております。</p> <p>次の資料は、先ほど申しました業務改善検討委員会で各ポジションから出ていただいた先生方に研究協議内容に対する現在の取組状況について挙げていただいたものです。黒字で太く書いて</p>
-------------	---

	<p>いるのが先生から出していただいた課題で、赤字が現在取り組んでいたり改善したりしている部分、青字はこれから進めていく部分、となっております。先生方からはとにかく会が多いので減らして欲しいという意見が多く、現在減らしていけるように努力して進めております。また、土日を使って全ての行事や事業を行うと先生方の勤務がしんどいという話もありますので、極力減らして平日開催も取り入れるようにしました。それから、先ほどもありましたが、校務支援システムとって、昔は指導要領も成績も全て手作業だったのですが、今はこういうところにどんどんパソコンのノウハウを入れていくというようなことで、先生が子どもと向き合う時間を増やしていくということも進めております。それ以外にも諸々ありますが、長くなりますのでまたお時間がある時にお読みいただけたらと思います。</p> <p>次は授業モデルについてですが、新居浜の先生は授業の一単位時間をこのようなモデルで行っております。目的を示して学び合い、子ども同士のボイスシャワーがあって、規範を確立して振り返り、それによって力をつけていこうという流れでございます。こういう授業をしていけば間違いなく力はつくのかなと思います。</p> <p>ここからは、国・県そして最後の緊急提言ということで、現在の国や県の流れを紹介しておりますので、これもまたお時間がある時にお読みいただけたらと思います。</p> <p>簡単ですが、これで資料の説明を終わります。</p> <p>非常に多岐にわたっておりますが、ただ今の説明について、何かご質問やご意見等はございませんか。</p> <p>私がかねがね学校と病院は非常に構造が似ていると思っております。どちらも相手は人ですので最終的にはどちらも人が働かなければいけない現場であると思っております。このポリシー（仮）を見せていただきますと、基本方針がありまして、成果・目標、取組の方針「チーム学校」の推進ということで、要するに「チーム学校」の推進というところからしても、学校にもっと人を入れて、その学校の先生と事務職員だけではなくて様々な人がサポートし合って子ども達の面倒をみていこうではないかというポリシーですので、このポリシーに私は賛成です。病院には医</p>
<p>関教育長</p>	
<p>宮内委員</p>	

<p>近藤委員</p>	<p>者と看護師だけでなくソーシャルワーカーなど他にも色々な人が必要ですが、同じように学校も先生と事務職員だけではなくて、様々な人が必要であると思います。是非そういった人達を学校に入れて、その人達をいかに子ども達に向かわせるか、あるいは教育委員会がどのようにまとめていくか、ということが大切だと思います。とにかく私は、人を入れるということは大賛成です。</p> <p>それからもう一つ、事務職員の方に自身も学校対応部門だということをはっきり自覚して欲しいと思います。学校で何かあればすぐに先生が出て行って先生が片付けて、ではなくて、自分でやれることは自分でやるし、自分の目から見た子どもの教育の在り方というのも大切だと思います。それは病院で医者と看護師だけが患者さんを診るのではなく、事務方から見た病院の在り方というのも再検討しているように、事務方も学校の一員だという自覚を持ち、ぜひ積極的な参画をお願いしたいと思います。</p> <p>それから、部活についてですが、大胆なことを言いますと、先生はみんな部活動から外せばよいと思います。例えば、先生がやったこともない剣道を教える必要はなくて、剣道は剣道で上手な人がいるのであれば、それこそいくつかの中学校を統合して地区単位で剣道部をつくり、そこに剣道の上手な人が教えに行けばよいと思います。日本体育協会が認定したスポーツドクターという、どうしたらスポーツが身体に負担が掛からないかというようなことを訓練しているドクターもいますので、是非そういった力も借りていけばいいのではないかと思います。学校の先生は先生として学校で働く、というのが私の考えなので、部活動改革が入っているこのポリシーには大賛成です。ぜひ積極的に推し進めていって欲しいと思います。</p> <p>私もこのポリシーはすごくいいなと思って見せていただきました。</p> <p>宮内先生と同じように、やはり部活動については、今度中学生になる子どもを持つ親としてもすごく不安なところがあります。保護者は子どもが6年生くらいになると、本当に部活で内申点が下がってしまうのかとか、中学校でどんな部活があって、どの部活だったら先生が厳しいとか、正規の部活は早く終わるけど、その後別の場所へ行って練習しなければいけないらしいとか、そんなことをやっていたら寝る時間がないとか、そんなどこまでが本</p>
-------------	--

<p>長野委員</p>	<p>当なのか分からないような話に皆さん右往左往しております。まだ6年生なのに、部活動や高校入試のことを考え、勉強する時間をどうやって作るのかと心配をしている保護者もいます。先ほどの学力の話にもつながるかと思うのですがこのように熱心な親もいれば、どうしてもそれ以外のことに力を注がなければいけない親もいると思います。ですので、このポリシーの中に保護者への教育的なものを入れていただけたらと思います。本当かどうか分からない話があまりにも横行しているものですから、何を信じてよいか分からず、やみくもに子どもに遅くまで勉強をさせなくてはいけないのではないのか、部活も成績を残さなければいけないのではないのか、部活を一回でも休んだら大変なことになるのではないのか、と心配したり、大学入試が変わっていったりして、保護者は本当に右往左往していると思います。なので、是非この中に保護者も置き去りにしないポリシーを入れていただければいいのではないかなと思いました。</p> <p>先生がICTの活用で勤務時間の実態把握をされているようですが、実際先生方は家に持ち帰って仕事はしていないのでしょうか。勤務時間を守らなければいけないということで、ただ家庭内に仕事をもち帰っているだけで、結局家族と向かい合う時間がないのではないかなというようにも心配です。学校でしなければいけない仕事はちゃんと学校でやって帰ってもらわなければ意味がないと思います。部活別居や部活未亡人という言葉もありますが、お父さんが部活を一生懸命やりすぎて家に帰ってこず、子育てはお母さんだけがやるという現実があるので、是非部活動や先生方の働き方、例えば家に仕事をもち帰ったり休日も一生懸命働かないと追いつかないというようなことになったりしていないかということを見直していただいて、新居浜市の場合はどういう考えなのか私達にも教えてくださいましたら嬉しいなと思います。</p> <p>「チーム学校」の推進ということで、外部人材の活用というのは避けては通れない、これからは絶対に必要なことだと思います。ただ、自分自身の若い頃に比べると、随分今は現状でもその頃から考えれば本当に色々な方が学校の中に入って、昔は先生と子ども達だけだったのが、今や支援員もALTもなくてはならない存在です。ですので、決して進んでいないのではなくて、進ん</p>
-------------	---

	<p>でいくなかでまだまだこういうところは必要です、ということでやっていかないと、学校にいる者にとっては非常に大きな変化や新しいものがまだまだ増えていくということは抵抗感にもなっていくのかなと思います。前ばかり見っていますが、過去をみればここ20年30年で子ども達を取り巻く環境というものは激変をしております。そういうところを踏まえながら、前を向いてやっていきましょうというように進めていって欲しいなと思います。</p> <p>それからICTを活用した勤務時間の管理というのは業務改善にあたって必要なことだとは思いますが、教師の仕事というのはこういうところで割り切れない部分が非常に大きな役割を占めているのではないかなと思います。きっちりと勤務を決めて、仕事をして、では帰ります、というふうに割り切ってしまう仕事ならどんなに楽かとは思いますが、それだけでは何か足りない、やはりもう少しこういったことをしたい、子ども達にこういったことをやってやりたいという気持ちが出てくるものだと思います。それが過度になるとたしかに問題になってしまいますが、そういう柔軟性というものをここにどれくらい加えていくのかということが重要になってくると思います。先生からすると、一生懸命頑張っているのに、これはやってはいけないのかというような不安が先にきてしまうと思うので、そうではなくて、柔軟に取り組むようなところもあってもいいという考え方で進めていかないと現場では受け入れがたいのではないかなと思いますので、その辺りも考えながら進めていただきたいと思います。</p>
高橋次長	ありがとうございます。
伊藤委員	<p>皆さんがお話されたように、学校の先生方が部活動などを含め過剰勤務になっているのが現状だと思いますし、マンパワーが足りないのだろうと、子どもの生活を通して学校を見ていても感じます。今、お話しいただいたなかでは、その先生方の過剰勤務をなんとか軽減しなければいけないというお話はあったのですが、最終目標の「これからの時代をたくましく生き抜く児童生徒の育成」を達成するには、その子ども達がどうやってたくましく育っていくか、はたして先生の過剰勤務を軽減するだけで、それに結</p>

<p>榎木次長兼教育力向上 戦略監</p>	<p>びつくのが何なのかな、というのがやはり大切ではないかなと思います。学校の先生方の軽減はするうえで、来年度この（仮）がとれてポリシーが決まり、それが実際先生方の現場において、マンパワーがとか勤務時間が変更になるというような目標がいつに定められているのか、ということをお教えいただきたいのです。</p> <p>先ほどの近藤委員さんの保護者の話もそうなのですが、今回のポリシーはあくまで学校業務をいかに改善するかという視点で作っておりまして、私もこの最後の目標を児童生徒の育成にもっていくべきか、先生方がワークライフバランスもしかりですが、バランスをとりながら子ども達に十分に余裕をもって接する環境をつくるということにもっていくべきか、少し迷ったところではあります。当然これとは別に学力をどうするかとか、新居浜の教育をどうするかという問題もありますが、このポリシーを前提にやるべきことをやるためにまずはバランスのとれた生活ができるようにしなければいけない、という考えに基づいて作成しています。</p> <p>保護者の教育の問題については、そもそも学校がやるべきなのかという問題もあるので、それをどう位置付けるかという問題もあって、5つ目の教育委員会等での社会教育、家庭教育の推進のなかで保護者の意識を高める、という目標を入れることはできると思いますが、学校の先生が保護者の意識をどうこうするのは本来の学校の業務なのかという話も当然出てくると思いますので、そこも含めて半年間やってみて、これを正式なものにしていく間に検討させていただければと思います。当然その部分はこの次の段階として何かしらちゃんと定めていこうと考えております。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>先生の業務改善ということであれば、そのことに集中してやっていただければいいかなと思います。</p> <p>これは私の経験なのですが、今年の4月に地元の保護者の方から電話がありました。その方は、お子さんが小学校1年生の時から地元のソフトボールのコーチをずっとやっている方で、子どもさんが今年中学校に入ったので、野球部の指導を部活の先生と一緒にやらせてもらえないか、ということでした。ただ私は直接学</p>

<p>関教育長</p>	<p>校に関わることはないのですが、お話は聞きますが、これは校長先生の判断が必要なので、校長先生や部活動の顧問先生とよくお話を進めてくださいとお伝えしました。そして、そのような外部の方のマンパワーを借りるとか、地域の人に関わっていただきたいということは教育委員会でも思っていることであります、とお話させていただきました。</p> <p>その後、その方は校長先生とお話をして、土日の練習等で指導に携わっていただけることになりました。私は電話の際に、指導の仕方も先生がだめということは絶対だめで、先生を覆すようなことはしないでください、というお話をしていたのですが、少し心配だったので、どういうことをしているのかなと練習を見に行きました。お父さんはずっと守備のノックをしておりまして、指導は先生がしておりました。ノックや力仕事など体力を使うことはお父さんが先生の代わりに行き、その分先生は指導に集中できるというようになっておりました。その保護者の方がだんだん先生の分身になってくれば、先生が半日休みます、ということも可能になるのではないかとということを地元の学校で見させていただいております。保護者の方の学校や部活動への関わりとかそういうものはぜひ進めていっていただきたいなと思いますのでよろしくをお願いします。</p> <p>今、伊藤委員さんがおっしゃった部活の指導員については、その辺の権限にまで委ねるような仕組みとして制定されておりますので、今後は保護者や地域の方に部活動指導員として一定の研修等を受けたうえで部活動の指導をしていただくような仕組みに変わっていくだろうと思います。</p> <p>長野委員に一つ質問です。学校の先生についていつも思うのですが、70点では満足できず、80点90点場合によっては100点を目指す、そのために残って色々な教材を作り上げていく、という方が多いように感じます。それをやるといつまで経っても教員の業務の軽減は図れないような気がします。それを超えていくためには、例えば電子黒板を導入して一定の教育レベルを揃えていくようなサポートのやり方でいいのか、あるいは教員みんなが協議して一定のレベルまでみんなが揃えられるような研修をするのがいいのか、あるいは一人一人が頑張っって自らの資質をあげていくのがいいのか、その辺が分からない状態で正直頭を悩ま</p>
-------------	--

<p>長野委員</p>	<p>せております。おそらく学校の先生のイメージと、私のような行政職員のイメージでは違いがあると思うので、もし先生の経験のなかで思うことがございましたら教えていただければと思います。</p> <p>私が思うのは二者択一ではないということです。こちらかこちらという考え方ではなくて、その両方をいかに上手く複合させながらやっていくかということで、みんなと一緒にレベルも上げながらそれぞれの個人の力も上げていくという部分が教員には必要ではないかなと思います。そこがすごく難しいところで、これは教員だけでなく他の職種でもそうかもしれませんが、一つだけに絞ればそれはそれで簡単かもしれませんが、切り捨てる部分もたくさん出てきてしまうと思います。</p> <p>自分の教材等のレベルの水準をどこに置くかに関しては、水準というものはないと思います。やはり子どもというのは、たとえ4年生を2年続けて任されたとしても、その年によって全然違います。子どもが全然違うので、去年の教材を今年も使えるかと言われるれば、使えません。学校というのはそういうところです。もちろん中には一回教材を作ったらそれを毎年使い回したら簡単じゃないか、それで授業もできるじゃないか、と言う先生もいると思います。同じように、何をすることも簡単に前のものを持ってきてぱっとやられる方もいるとは思いますが、しかし、目の前にいる子どもに合わせて必要なものを改善して工夫して直していかなければいけません。学校の現場というのはだいたいそうだと思います。みんな、今自分の目の前にいる子ども達をいかに良くしていくかということに一生懸命なので、同じ一つの教材で何年も何年もやっていくというのはできかねると思います。</p> <p>業務の方で負担があるとかすごく大変という先生は、すごく真面目な一生懸命頑張る先生です。やりたいこともあるし、仕事なのでより良いことを求めるのはあっていいのではないかなと思います。</p>
<p>宮内委員</p>	<p>私は、一回講演をすると上手くいったところと上手くいかなかったところが出てくるので、その日のうちに次に呼ばれた時はここを直そうというふうに毎回直しているので、長野委員さんがおっしゃったようにいつまで経っても100%完成というのはな</p>

<p>長野委員</p>	<p>いような気がします。</p> <p>それともう一つは、私は誰かに仕事を頼まなくてはいけない時は忙しい人に頼みます。暇な人に頼んだら絶対に返ってきません。すごく忙しく一生懸命仕事をしている人に頼めばちゃんと返ってくるので、病院でも忙しい人はどんどん忙しくなり、暇な人はいつまで経っても暇です。</p> <p>多忙感でこのような業務改善ポリシーを作らなくてはいけないという背景には、今学校のなかには仕事の多さに不平・不満を持っていてしんどい思いをしている人がすごくたくさんいるということだと思います。ですから、社会全体で見直しましょうという方向になっているのだと思うのですが、負担感だけではなく、大変だけど良かったなという充実感とか満足感、達成感とかそういうものがあれば随分違ってくるのではないかなと思います。ものすごく大変なことをしてしんどかったけど、自分にとってこんなにいい経験ができたとか成果が得られたと思うことができれば、その人にはとってそれは負担ではないのではないかなと思います。逆に言えば、そういう気持ちを持てないということは、自分のやりたいことではないことに追われているのかなと思います。全員がそういうわけではないと思いますが、一概に時間が多いから負担があるとか、こうだから勤務時間をもっと減らさなければいけないというものではないという部分についても考えながら進めていかなければいけないのではないかなと思います。</p>
<p>関教育長</p>	<p>我々行政職員であれば、時間外勤務というのはあくまでも命令行為で、上司が管理職に命令して、この仕事をしなさいということで職務を与えて、それに対して対価を支払うというルールの中で動いておるのですが、教員の場合はその適応除外で、それぞれが自らの才能において動く仕組みなので、我々の感覚からすると、管理職にそれを求めるべきなのか、あるいは自らのセルフマネジメントにそれを求めるべきなのか、そこが非常に難しいテーマなのかな、といつも思います。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>このベースとして考えているものの一つにワークライフバランスがあると思うのですが、選ぶことができるのが一番いいと思います。人生の中で多少負荷がかかるけど、自分のためにも子ど</p>

	<p>ものためにもいいと思って仕事に時間を注ぐ時もあると思いますし、仕事に手を抜くわけではないけど自分の人生や家族のことに重きを置く方が大事な時もあると思うので、そういう選択ができるような環境がないと、先生方の中には身体を壊してしまうような方も出てきてしまうのだと思います。業務改善をする中で決して仕事に手を抜くということではなく、やはりその人がどういう働きをしたいか、自分は今どういう働き方をした方がいいのかということを考えることができる環境があるということが大切なのではないかなと思います。</p>
宮内委員	<p>4点質問があります。</p> <p>まず一点目は時間外労働についてですが、今学校の先生は平均どれくらいの時間外労働をしていらっしゃるのですか。</p>
高橋次長	<p>多い人少ない人がいますが、だいたい40時間前後だと思われます。</p>
教育長	<p>ちなみに9月の実績で100時間オーバーが5人くらいでした。</p>
長野委員	<p>それはどのように調べるのですか。</p>
教育長	<p>あくまでも自己申告です。</p>
宮内委員	<p>うちの病院の事務職員は行政職員と全く同じで、管理職が命令して仕事をしておりますが、医者の場合には全くの自己申告です。一生懸命自己申告に努める方もいるので、時間外勤務がその人の労働力を反映しているわけではありません。</p> <p>2点目は、たくさんある「〇〇教育」についてです。「〇〇教育」というものは指定された学校が一生懸命取り組むと思うのですが、その指定校で取り組まれた「〇〇教育」を他の学校に共有する仕組みというものはあるのでしょうか。例えば、「道徳教育」を行う際に泉川中学校が指定校になったら、そこは伸びるでしょうが、そこで培われたノウハウは他の学校にきちんと共有されているのか、それとも先生の負担になるので寧ろ共有しない方がいいのか。とにかく、「〇〇教育」というものがいっぱいあります</p>

	<p>が、それを他の先生方に共有する仕組みというものはあるかという点について教えていただきたいです。</p> <p>3点目ですが、学校の先生は性格的なりなんなり幅広いものを持っていないとゆとりが持てず、それでは子ども達を人格者に育てることはできないと思います。ですので、夏休みや冬休みは自由で山登りでも世界一周でもなんでもいいので生活の幅や自分の見方を広げるための活動に使えるように、長期休暇の活用の幅を広げてあげるようなアイデアはありますか。</p> <p>4点目ですが、学校の先生のモチベーションを上げてあげたいと思うのですが、何か良い方法はありませんか。</p> <p>ちなみに私は、うちの病院でよく急患を診た医師は毎月の運営会議で上位3名だけ名前を呼んでありがとう、と伝えております。みんながいる前で、あなたよく働いたね、よく頑張ったねということを書いてあげると、少しはモチベーションが上がるかなと考えて毎月やっております。同じように学校の先生のモチベーションを上げる方法も考えていかなければいけないのではないかなと思います。</p> <p>以上4点、時間外勤務と「〇〇教育」の共有システムと学校の先生の幅を広げる方法、そしてモチベーションを上げる方法についてお伺いしたいです。もし、このポリシーの中にそういったことについて書き加えることができるのであれば、どこかに入っているといいかなと思います。</p>
高橋次長	<p>ありがとうございます。次回の教育委員会定例会でお答えさせていただきます。</p>
関教育長	<p>これはまだあくまでも仮の案ですので、今からみんなでこれを煮詰めていけたらいいなと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>他に何か連絡事項はございませんか。</p>
高橋学校教育課長	<p>学校教育支援センターだよりNo. 15というものをお配りしていると思いますので、お目通しください。</p> <p>左側につきましては、夏休み中に実施されました浮島小学校と金子小学校での書架のペンキ塗りなどの学校図書館の整備の様子、一番下は泉川小学校の校舎改造後リニューアルされました図</p>

	<p>書館の様子を掲載しておりますので、ご覧下さい。</p> <p>右側ですが、8月23日に神郷小学校、金子小学校において実施されました学校司書の研修会で3、4年生のおすすめ本の共有を行いました。その一覧表を紹介しておりますのでお目通しいただければと思います。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>関教育長</p>	<p>他に何かございますか。</p>
<p>曾我部次長兼文化振興課長</p>	<p>文化振興課でございます。</p> <p>お手元に広瀬のもてなしという緑色のパンフレットをお配りさせていただいておりますのでお目通しください。</p> <p>10月28日から12月3日までの間、広瀬歴史記念館の方で広瀬邸と庭園の成り立ちと題しまして市制80周年と開館20周年の特別記念展を開催いたします。今回その特別企画展のチラシをお持ちできればよかったですのですが、今まだ鋭意作成中ということですので、お持ちすることができなかったのですが、その企画展の関連事業といたしまして11月3日から5日の間、広瀬邸や旧広瀬邸におきまして色々なイベントを行います。さらにこの期間は無料公開しておりますので、是非ご参加いただきまして、秋の一日をお楽しみいただければと思います。皆様方にも広報していただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
<p>関教育長</p>	<p>他には何かございますか。</p> <p>それでは、次回の定例会の日程を決定させていただきたいと思っております。</p> <p>来月11月の第一木曜日は2日となりますが、いかがいたしましょうか？</p>
<p>宮内委員</p>	<p>11月2日は今治に行く予定があります。</p>
<p>関教育長</p>	<p>では、その周辺で可能な日はございますか。翌週の木曜日は松山で四国地区市町村教育委員会会議があり、そちらの方に行っておるので木曜日の開催は難しいかと思うのですが。</p>

宮内委員	私は、その前の6、7、8日でしたらどこでもかまいません。
関教育長	<p>では11月の定例会は、11月7日火曜日の15時より開催させていただきます。</p> <p>よろしくをお願いします。</p>
伊藤委員	<p>一点お願いがあります。</p> <p>今回、私は金子小学校の運動会で初めて引き渡し訓練を拝見させていただきました。他にも引き渡し訓練を行っている学校があるとのことですが、もしよければ来年から全小中学校で取り入れてもらえないかなと思っております。</p> <p>金子小学校では、午前の部の最後のプログラムを引き渡し訓練にしており、昼食で来られた保護者の皆さんに参加していただけるようになっておりました。校長先生が「訓練です。大地震が発生しましたので、児童は運動場の真ん中に集まりなさい。」と言う放送をしたら、児童は運動会なのでトラックの向こう側に座っているわけなのですが、それがみんな出てきて、担任の先生もすぐに自分のクラスの札をかけて真ん中に立ち、そこに子ども達が並びます。それに対して保護者の方は先生を挟んで児童の反対側に並び、児童と保護者の真ん中にいる担任先生はクラス名簿を持って、どの児童の保護者が迎えに来たかというのをチェックするという流れで訓練をされておりました。これは非常にいいことだと思います。ぜひ年に一回運動会の時にできれば全学校でやっていただきたいと思いました。運動会の時にやって一番いいなと思ったのは、お父さんお母さんが引き渡し訓練をしているところを、おじいちゃんおばあちゃんも周りで見ることができるといことです。本当の震災が発生した時に、お父さんお母さんがすぐに迎えに行けないという可能性もあると思うので、おじいちゃんおばあちゃんが代わりに迎えに行くとなった時に、お父さんお母さんがどういうふうに引き渡しをしてもらっているかというのを運動会の時に一度見ていれば引き渡しもスムーズであると思います。訓練のためにだけ三世代できてくださいということはなかなか難しいと思いますが、運動会でしたら三世代そろって、どのように引き渡しが行われているか直に見ることができる状態で訓練ができるので、運動会の時に行うのは非常に効果があるのではないかなと思います。できれば校長先生方にお話ししていただい</p>

関教育長

て来年度からは全校で運動会のなかで引き渡し訓練をやっている
ただ、これはできないかなと感じましたので、ここでお願いさせて
いただきました。

来年度の小学校の運動会は春に移行して、おそらく場所によっ
ては地域との合同開催というものも出てくるような気もするの
で、その辺も含めて学校の方にも今のご意見伝えていきたいなど
思います。ありがとうございます。

それでは11月の定例会については先ほど申しましたとおり
11月7日火曜日の15時より開催させていただきます。

それともう一点、翌月の12月の定例会は総合教育会議と同日
に開催したいと考えておりますので、今回日程調整をさせていた
だきます。市長の日程の関係で12月7日(木)午後を予定して
おりますがいかがでしょうか。

12月の定例会及び総合教育会議は、12月7日木曜日に開催
させていただきます。時間、場所等詳細につきましては調整して
連絡いたします。

それでは、これよりは非公開審議に入りますので、関係者以外
の方は退席をお願いします。

	<p data-bbox="603 1422 1235 1458">委員会会議規則第13条の規定により署名する。</p> <p data-bbox="635 1563 724 1599">委員名</p> <p data-bbox="635 1756 724 1792">委員名</p>
--	--